

I 実践

1 研究主題

児童一人一人が「楽しい」と感じられる学校の実現を目指し、差別と偏見をなくす全教科・領域での人権教育の推進。

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、「一人一人の能力を開発し、心身共に健康で人間性豊かな児童を育成するー『強く』『正しく』『美しく』を目指す仲町っ子の姿ー」である。目指す児童像として、「元気でたくましい子ども 粘り強く考える子ども 思いやりのある子ども」、目指す教師像として、「根気強く熱意をもって指導にあたる教師 わかる授業を展開できる教師 子どもの心に寄り添う教師」を掲げている。

本校は、各学年単学級で全6クラス、各学級の児童数は20名程度という小規模校であり、他学年でも児童同士が顔見知りであったり、6年間同じクラスで気心が知れていたりする中で成長していく。このことを、子ども一人一人の人間関係に寄り添ったきめ細かな指導を全教科・領域で推進することや、多くの児童が互いに理解し合う学校行事などの活動をするすることで、差別や偏見のない人間関係を学ぶための強みをとらえた。

以上のことから、互いを大切にしようという気持ちを育むとともに、人権尊重の精神の涵養を進めることで、児童一人一人が「楽しい」と感じられる学校が実現され则认为、本主題を設定した。

(2) 研究内容

- ア 豊かな体験活動の充実
- イ 人権についての啓発活動の充実
- ウ 人権教育に関する研修の充実

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の充実

ア 異学年との交流活動

木曜日のロング昼休みに行われる縦割り班活動（ハッピータイム）を中心に、学校行事などにも異学年交流を取り入れた。4月には、縦割り班で活動する「1年生を迎える会」を行った。

11月には、かみね動物園への遠足を縦割り班ごとの見学として実施した。高学年がリーダーシップをとり、班の児童が楽しく活動できる行事になった。

イ 地域との交流

- ・3学年 竹とんぼ作り（親子・地域のお年寄りとのふれあい）
- ・4学年 風流物体験（地域の保存会の方々から学ぶ）

ウ ふれあいから人の気持ちを大切にすることを学ぶ活動

5月・ありがとうカードの作成開始

「自分の、友達のいいところを見つけよう」をテーマとして、全校児童がありがとうカードを記入した。カードは毎月記入し、「ありがとうの木」にはって掲示した。



【ありがとうの木コーナー】

・運動会

家族の声援を受け、運動の演技を披露した。ルールを守って競い合ったり、チームの友達と励まし合ったりしながら力一杯種目に取り組んだ。また、4学年以上は係として協力し合いみんなのために自分の責任を果たそうと努力した。

7月・あいさつ運動開始

登校時に校門に並び、登校してくる児童に「おはようございます」と声をかける活動をした。あいさつを交わすことで元気を出すことができるとともに、リーダーとして認められる満足感をもたせることができた。

11月・風流物体験

4年生の総合的な学習の時間では、地域の特色である伝統的な出し物（『日立風流物』）や受け継がれてきた太鼓の演奏について学んだり、体験したりすることで地域の方々と交流することができた。



(2) 人権についての啓発活動の充実

ア 人権メッセージ募集の実施

道徳の時間などを活用し人権メッセージの作成を実施した。特に感染症への差別や偏見の問題について考えるように呼びかけた。これらは校内の人権コーナーに掲示して定期的に入れ替えをした。児童は、たくさんのメッセージを見ることで、人権意識を高めることができた。

(3) 人権教育に関する研修の充実

校内研修で人権問題啓発映画「ホーム」を鑑賞し、同和問題や人権差別等、人権に関わるさまざまな問題について見識を深めることができた。

3 成果

- (1) 縦割り班活動を多く取り入れ、異学年と交流することで、自然と高学年の児童が、低学年児童の面倒を見たり、手をさしのべたりできるようになった。また、休み時間には、学年を超えて、仲良く遊ぶ姿が、多く見られた。
- (2) 地域との交流を深める中で、お年寄りや身近な人への尊敬や感謝の気持ちが育ち、思いやりの心がもてるようになった。そして、このことから相手を大切にしようと思う心が育ってきている。
- (3) 人権メッセージの募集により、子どもたちの中に人権に対する意識づけができた。また、文章を書くことで自分自身を見つめ、自分の気持ちや他の人の気持ちについて考えることができた。

II 今後の課題

小規模校であるため、慣れが生じ、友達のことを呼び捨てて呼んだり、言葉遣いが乱暴になったり、教師など目上の人に対して敬語で話すことができなかったりといった傾向がある。

そこで、教師自身が児童を「さん」付けの呼名したり、児童へのていねいな言葉遣いを徹底したりと、普段から人権を意識し、児童一人一人を大切にする指導を心がけていく必要がある。また、全職員で人権教育に関して共通の認識をもち、さらに人権意識が高められるように、研修内容や時期を工夫し、取り組みを進めていきたい。

また、地域や保護者との連携を密にし、保護者や地域全体の人権意識も一緒に高めていくことができるよう、啓発活動にも力を入れていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

